



学校法人 いのせ学園
サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園
〒329-0417 栃木県河内郡上三川町上郷生2111-1
Tel-0285-54-7222 Fax-0285-54-0360
<https://www.sunnyside.yashio.ed.jp>



学校法人 いのせ学園
サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園

SunnySideInternational SunnySideInternational



Introduction ごあいさつ

やしお幼稚園の設立は1977年です。

設立当初から大切にしていることは、自然との触れ合いです。

当園には森があり小川があります。動物がいます。

子どもが成長し大人が成長する。豊かな自然がその舞台です。

そこに込められているのは、やがて社会に出ていく子どもたちに
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」ための土台をしっかりと
身につけてほしいという想いです。

もうひとつ大切にしていることに「しつけ」があります。

あいさつ、返事、紙をそろえる、姿勢を正すなど。

基本的な生活習慣が一人一人の子どもに身につきようとしています。

その上で21世紀に生きる子どもたちは世界のなかで力を見出しなければなりません。

日本語でも英語でも自分を表現できる能力を身につけ、

コミュニケーションを図ることはあたりまえのことになります。

子どもは驚異的な能力ですばやく言葉を習得し、先づきなアクセントや表現を身につけてしまいます。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園では、英語を自由自在に使えることが不可欠となった
現実を踏まえて、子どもたちへの英語教育を行っています。

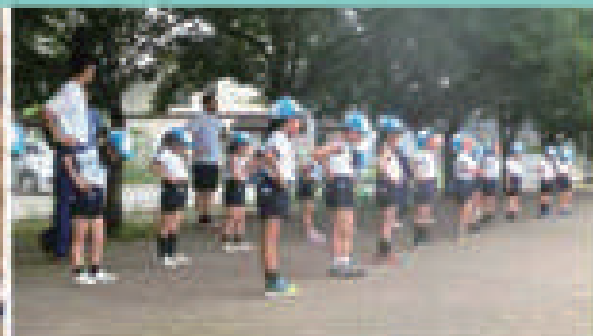
日本人の心を大切にする異国の園児人が、やしおの森から育立ってくれることを期待しています。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園

園長 古本裕一

What is Sunnyside Program?

サニーサイドプログラムって？



サニーサイドプログラムは・・・平成13年度より越前市の幼稚園で教育改革 일환モデル事業として開始し、その教育成果が大きく評価されている日本人教師と外国人教師によるチーム保育形式の幼稚園教育で、いのち学園では平成16年度に開始いたしました。外国人スタッフのみ、また英語のみで保育を行う、「インターナショナルスクール」と呼ばれる施設と違い、文部科学省が規定する日本の「幼稚園教育要領」を基本に保育を行っています。



● 真の「国際人」を育成したい

「国際化時代」とよく言われますが、それでは「国際人」って何だろう？と考える時、それは「英語が話せる＝国際人」ではないと私たちは思います。国際社会において魅力的な人材とは、自国の文化を知り、自国の国民性のすばらしさを理解し、コミュニケーションをとることが出来る社会人ではないでしょうか。サニーサイドでは、教育の目的が「英語を話せるようになること」ではなく、あくまで幼児の育ちの環境として決して欠けりない、バランスのとれた適切な環境であるということを実践しています。

● 日本人としての育ちを大切に

サニーサイドの最大の特色はその教育の基本を日本の幼児教育にあり、基本的な生活習慣に始まり、相手の思いや尊重、優しい気持ち、友達と仲良く関わることの出来る力やどんな遊びにも積極的に参加出来る態度作り、また、日本の言語や風習、おもちゃなどの伝統行事など、幼児生活の中で子どもに身に付けてほしいこと、体験してほしいことはたくさんあります。真の国際人を育てていくためには、日本人としての育ちや日本の文化にふれる体験も大変重要なことと私たちは考え、保育の中にそれらを出発点として取り入れ、外国人の先生も一緒にそれを体験しています。詳しくは年毎の行事内容を下記下さい。

● 生活の中で自然に身に付く英語

例文に始まり、「Go get your bag! カバンをロッカーから出しましょう」「Let's sing a song! 歌をうたしましょう」「Who is not here today? 今日の出席は誰ですか？」など常に日常生活の中で必要な動きや物事に合わせて英語を耳から入れる為、大人がするような「言葉を口の中で訳す」というプロセスをサニーサイドの子どもたちは持っていない。それぞれの機能や事象をイラストやフラッシュカードで見せながら教える必要はなく、英語を母国語とする子どもが身に付けていくのと同じ方法で英語を習得していきます。

● 日本人教師は「日本語」のみ 外国人教師は「英語」のみ

1990年代には脳科学の分野が革新的な発展をとげました。その中でいわゆる「バイリンガル脳」の構造についてや、その育成に必要な育ちの環境についても多くの研究がなされました。その結果、バイリンガルな子どもが育ちやすいのは父親と母親がそれぞれに違う言語を話す場合だということがわかるようになりました。つまり、例えば母親だけが日本語と英語を話さなければなら子どもに話しかけてもあまり効果が期待できないという研究結果です。私たちはそれらを踏まえ、日本人教師は日本語のみで、外国人教師は英語のみで子どもと関わることを基本にしています。

保護者インタビュー

稲垣かなちゃん

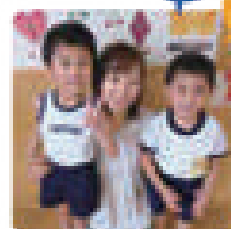
きっぺいくんとお母さん



入居を決めたきっかけは2つあります。まず1つ目は、早期に自然な環境で英語を学んで欲しい。2つ目は多様な価値観に触れ、どんな世界になっても自分をしっかり持っていて欲しいと思ったからです。サニーサイドは英語教育をはじめ、日本人としての礼儀作法の指導、様々なイベントを通して子どもたちのチャレンジ精神や好奇心を育んでくれます。子どもたちから楽しかったことや学んだことを聞くのが毎日の楽しみになっています。これも同じ、たくさん愛情を持って接してくれる先生方のお陰です。また、私たち保護者にも親身に接していただきとても感謝しています。これからも「サニーサイドで学んだことを活かして、親子で成長していきたいです」。

中山いつきくん

はるきくんとお母さん

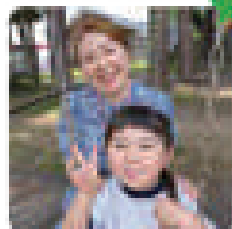


国際交流が盛んな環境で子どもたちに英語がより英語を学ばせたいと思っていました。サニーサイドは、英語の音や多様な文化に触れながら日本の礼儀作法等が学べる魅力ある校舎です。シャイな性格も楽しみなが自然に英語を吸収し、車に乗ると地球儀や世界地図をみて「この国に行きたいな」と想像力を膨らませています。まだ年少の頃は不安が強く泣いてしまうことがありますが、園長先生をはじめ多くの先生方が言葉の必要前を把握し、優しく丁寧に指導して下さるため、安心してお預けすることが出来ます。これから多くの素晴らしい環境で様々なことに挑戦し自分たちらしく成長してほしいと思っています。

早川けいこくんとお母さん

幼い頃から英語に親しみ、多様性への理解を育んでほしい。そんな思いから、我が家はサニーサイドを選びました。入居後すぐに、子どもたちはネイティブの先生方とのふれあいを通じて、英語の歌やフレーズを記憶してくれるようになりました。その際に、日々の積み重ねの大切さと成長を感じています。またサニーサイドでは、基本的なマナーや礼儀作法も生活の中で取り入れているので、自然と身に付けることが出来るようです。先生方とても温かく、丁寧に子どもたちに寄り添ってくださるので、安心して預けることが出来ます。年間を通してイベントも充実しており、親子子どもたちのいざいざとした表情を見ることもとても楽しみです。このような恵まれた環境の中で、子どもたちが成長出来ること心から感謝しています。

藤村いとなちゃんとお母さん



ぬのある環境に置かれどっこりクラスに通っている頃に「ロバさんのいるABCの絵本屋に毎日行きたい!」と娘が言ったことが決め手となり入居することになりました。机に向かい詰め込むだけの学習ではなく、日常会話の中でいろんな国の先生と自然に触れ合い英語や文化を吸収できる環境でありながら、しっかりと日本人的な習慣も身につけることのできる唯一無二の園だと感じます。園長先生をはじめ担任の先生以外の先生方やバスの運転手さんとも名前を覚えてくれたりと温かく迎えてくださる保護者としても安心して預けさせられることにも感謝しています。海外に行く機会が増えることなく自然と英語を楽しく感じています。

及川りんちゃんとお母さん

私も主人も英語が得意ではありません。年少時に英語に触れる機会も少なく、大人になっても苦手意識がありました。しかし、これから成長のある子供の事を考えると、グローバル化する社会に備えて幼児期のうちからネイティブな英語に触れる事で、私たちの感じていた苦手意識もなくなるのではないかと考えました。そんな時にサニーサイドの情報を耳にして入居を決めました。毎日の生活の中で英語に触れる機会が多く、家でも見た英語を披露してくれたり、海外旅行でも園地の子供達と簡単な英語で会話を楽しめることが出来るようです。園によってとてもよい経験になっていると日々感じています。これからお預けのことを決断して、大きく成長して欲しいと思っています。



佐藤るりちゃんとお母さん



子ども達に英語を身近に感じて欲しい。サニーサイドを選びました。年間を通して様々な国の友達と仲良く、年長になった時も毎日楽しそうに通っています。日本人の先生方は親身で丁寧に指導して下さい。外国人の先生方もとても優しく、安心してお任せできます。日々英語に触れることで、発音や表現力が自然と身につく。英語が苦手な私はすでに言い回しされていると感じる場面が時々あります。海外出張も充実しており、英語やピアノ、体操教室に通いながらクラスの友達も増えました。英語の勉強でやっていけるのか?と不安に思ったこともありましたが、子ども達が笑顔で通っている様子を見るたびに、サニーサイドに入居して良かったと心から感じます。

榎本れいちゃん

かいくんとお母さん



園の魅力の一つは、ネイティブの先生方が日常に英語で話しかけてくれる環境です。歌やゲーム、紙本の読み聞かせを通して楽しみながら自然に英語に触れています。うちの子どもはネイティブの先生方と遊ぶのが大好きで毎日、家でも見た英語の歌を口ずさんでいます。特に印象的なのは、年長発表会です。緊張しながらもステージに立ち、英語のセリフや歌やダンスを堂々と披露する姿を見て、たくさん練習した子供の頑張りと先生方の熱意に涙を打たれました。行事のたびに、子どもがひとつずつ「できた!」を積み重ねているのがわかります。コロナ前ではまった子でしてましたが、園としての安心を覚えてくれていいです。園でたくさんのお話を聞いて、3人が自分らしく育っていくことを楽しみにしています。

Piccoli Class

未就園児教室

サニーサイド

ピッコリクラス

早い時期から他のお友達と一緒に遊ぶ中で、幼稚園に上がってからもよりスムーズなスタートを切ることが出来ます。

幼稚園入園を控えられた2歳児のお子様を対象に、週一度のクラスを開催しています。サニーサイドインターナショナル・Y&Cの幼稚園教師、日本人教師と外国人教師によるチーム保育形式で行なっております。クラスは定員制とし、一人一人と十分なコミュニケーションがとれるよう配慮しています。

★木・金曜日

※コース 10:00~14:00

★クラスの定員は定員制です。
幼稚園までお迎えのバスです。



After School Class

園外レッスン ● 英語教室

外国人講師による少人数制の英語教室を行なっております。幼稚園生にはもちろん、小学生を対象としたクラスも行なっています。また、サニーサイドの卒業生には、週2回コースも開設し、磨いた英語力をさらに伸ばすことが出来るよう対応しております。

★月曜日・月曜日、
詳細は各園まで
お問い合わせ下さい。



サニーサイドに入ると英語がペラペラになる・・・???



長年市のサニーサイドインターナショナルスクール（略称サニーサイドインターナショナルスクール）に最初のサニーサイドクラスが出来て以来、この地に遊びに来る保護者の方の思いには色々なものがあることに気づきます。

サニーサイドはもともと異文化の生活を外国人の先生と過ごすというごく自然体な「生活環境」ですが、中には「まだまだ英語の量が足りないから増やしてほしい」という方や、「私はもともと英語が話せるようになることをそんなに意識していないから、そんな英語ばかり強調しないでほしい」という意見、声に響きます。そんな意見ばかり強調しないでほしい」という意見、声に響きます。

そして私たちは、色々な思いや期待を持つ保護者の方の思いと、言葉で触れ合う子どもたちの姿を見つめながら、「この子どもたちにとって大切なことって何だろう」それだけ考えながら教育をしています。

サニーサイドと言えば、確かに「英語教育」というイメージがあると思いますが、本来は「英語環境」であって「英語教育」ではないなと感じています。そして、幼稚園の子どもたちにとって、「英語」というものがどの位置に意味を持つのか、私たちはそれを日々目の当たりにしています。

小さな子どもと私たち大人の状況の違いと言えば、「新しい環境への適応力」であり、様々な情報や知識の「吸収力」であります。つまり、この「英語環境」は子どもたちにとって必要ではありません。「英語環境」と言えば、子どもたちは見る見るうちに理解力を身に付けていきます。

しかも、自然のことながら、小さな子どもたちの場合、意味を理解するプロセスは「意味の観察」を介しません。自然体は買われていることそれから自然に学んでいきますが、毎日英語の中で英語を聞いていると、何の音の時に「left, right or song」と聞けば、手を挙げるのだと理解しますし、給食の前に「Go, wash your hands」と聞けば、手を洗いに行くのだと理解できるようになります。生活の中で行動を自然ながら学べるので、おえて言うなら「意味がわからなくても理解がわかる」ということです。

そしてこの能力こそ、生後から幼児期にかけて子どもがもっとも得意とすることであり、どの子にもある力なのです。

例は、日本語もこうして子どもたちは覚えていくのですね。「生活の中で自然に身につく」・・・これが英語です。

また、英語の発音の理解の領域は、日本語と違うと語られています。小さい頃から英語を聞き慣れていないと、発音の理解も大人になっても自然と耳から入ってきません。これは「耳の壁」と言われることもあります。大きくなるにつれて、それが出来てしまうと、何か英語の音が耳から入ることに違和感があるというか、あまり心地よいと感じなくなります。そして、大人になってから、それを取り除こうとしても結局にそれが出来ません。そういうものだと買われています。

ところが、サニーサイドの子どもたちは、毎日の時から毎日英語を聞いているので、英語が耳から入ることに違和感を感じていません。外国人に囲まれていたとしても、耳から入ってくる音はまったく変にならないのです。

「毎日」というのは本当に英語で言葉を話します。小学校1年生で、たとえ英語が優秀で英語が大好きだという子どもがいても、もしその子が毎日のように英語を聞く環境にいなかったとしたら、実際、サニーサイドの子どもと同じ英語の理解力を身に付けるのは相当な時間と努力が必要になってきます。毎日の積み重ねで聞いたもののすごさはそういうものです。

「サニーサイドに入れたら、半歳する頃までには英語がペラペラに話せるのか」とたまに聞かれることがあります。もちろん子どもによってそれはまちまちで、速くなくバイリンガルになる子もいますし、ほとんど話そうとしない子どももいます。平均的な場合で言えば・・・「ペラペラ」ではないです。おそらく普通話話者土や、言葉に対して話す意欲はほぼ100パーセントは普通でしょう。でも、これは本当にどちらでもよいことだと考えています。つまり、話せる子は、たまたま言葉に感応力に優れているか、家で話す練習をそれとなくしていたりする場合が多いですが、普通の話者と言えば、ほとんど同レベルだけです。家で話さず友達だけで日本人ばかりなので、子どもだって、ただコミュニケーションをとるのに便利な日本語の方を使っているだけなのです。

それでは英語を話す力は身に付いていないのかと聞かれるなら、英語を話す外国人の子どもの中で毎日生活させてみてください。「英語はどんな力を働かせていたのか？」と聞かれることでしょう。

聞くことを「Input」話すことを「Output」と言いますが、人間が言葉を使えるようになるプロセスは順番のとおり「Input」が先です。もちろんですが、生まれてから1年以上「Input」を続け、その後やっと「Output」が出てくるのです。聞いたことを話せるようになるのもあり、聞いたことがないものを話せるようになるわけがありません。

私たち大人が聞けてきた英語教育の最大の間違いは、その最初の段階である「Input」がないまま、いきなり読み書きをさせられたことです。日本人が英語を話すことが苦手なのはそれに由来するとも言えるでしょう。

その点、サニーサイドの子どもたちは十分に「Input」のプロセスを経験しています。環境さえあれば、また言葉がくればいつでも話せるようになるのです。そしてそこで練習するのは、「Input」のプロセスを途中で中断しないこと。小学校へ上がったあとと英語1回でもいいでしょう。言葉が出てくるまで「Input」し続けることが大切です。

サニーサイドインターナショナルスクール（略称）
園長 齊之

